きょうは、よろしくお願いします！

学生×地域 つながる未来プロジェクト

スタートアップセミナー

「地域で課題をどう見つけ、伝えるのか」

2020.10.31　@京都経済センター

京都新聞社 メディア局 読者交流センター長

石﨑 立矢 （いしざき たつや）

自己紹介

1968年 大阪府東大阪市 生まれ

1992年 立命館大学 経済学部 卒業

京都新聞社 入社 編集（取材）部門に配属

主に京都府・滋賀県 各地のまちづくり

政治・行政・分権自治の取材を担当

仕事以外に地域活動として

- 「上京朝カフェ」主催
- 「上京ちず部」部長

放っておくと消え去ってしまう情報を
すくい取り、みんなが囲んで使えるようにしたい…

上京朝カフェ（毎月第4木曜の朝8時～9時半、上京区役所）

自分の取り組み伝えたい × 知恵や力を借りたい × まちの動きを知りたい

※今年度はZOOMとの併用

昨年度のようす ↓

上京ちず部

地図と地域を楽しむ × まち歩きで地域を知る × 白地図に情報や知恵を出し合う

昨年度のようす ↓

地域・まちへの関わりは、人それぞれで複合的

まち歩き

商店街

歴史

思い出

伝統産業

カフェ

妄想

買い物

福祉

子供の居場所・遊び場

景観

未来の夢

友達

防災

環境

情報は通り過ぎ、消えていく…

こんな地域社会だったら、いいな…

（石﨑の私見）

地域で暮らしている人、活動している ごく普通の人々が、
互いの得意なこと、困っていることをさりげなく分かっていて、
なにか 課題解決や 楽しい取り組みに動き出そうとした時に、
できる範囲で できる限りのサポートをし合える関係性を築いている まち。

そのために、地域にどんな人がいるか、どんな資源・課題があるかを、地図や情報拠点・ローカルメディアで一覧でき、
時には場に集うことによって、
必要な人・資源の情報を必要な時に、リアルタイムで
手に入れられる まち。

…じっくり、何年間も地域に関わるなら…

情報は、人が選んで人に言葉で 伝えるもの

新聞記事の４類型

【本記（本文記事）】

何が起きたのか。何があったのか。５ＷＩＨ。ファクト

【サイド記事】

その場にいる人、関わった人、当事者はどう動いたか。
何を思い、考えたか。リアルな反応、動き、感想

【評論・コラム】

筆者の知見、経験を踏まえて、読み手の心に響かせる

【解説】

事例やデータを基に論じ、読み手の頭に理解させる

誰が伝えても同じ…ではない

〈先の４類型に即して〉

ファクトかどうか、すら疑われる時代

あの人の言うことだから、

あのメディア・団体が伝えているから間違いないだろう…

情報源（話者、投稿者）の信頼性

どの出来事を伝えるのか　／　どの当事者に登場してもらうのか

話者・投稿者がどんな経験を積み、どんな言葉を紡いで伝えるか

どの事例やデータを選ぶのか　／　　ニュースは「驚き」

同じ出来事を取材しても、メディア・記者によって全然違う

実際に新聞を見てみましょう

視点をどこに置くのか　①

「６Ｗ２Ｈ」の発想。To whom　How much

１４０文字に全部は盛り込めない。

「伝えたい」と思った公共性、驚きのどこを選ぶか

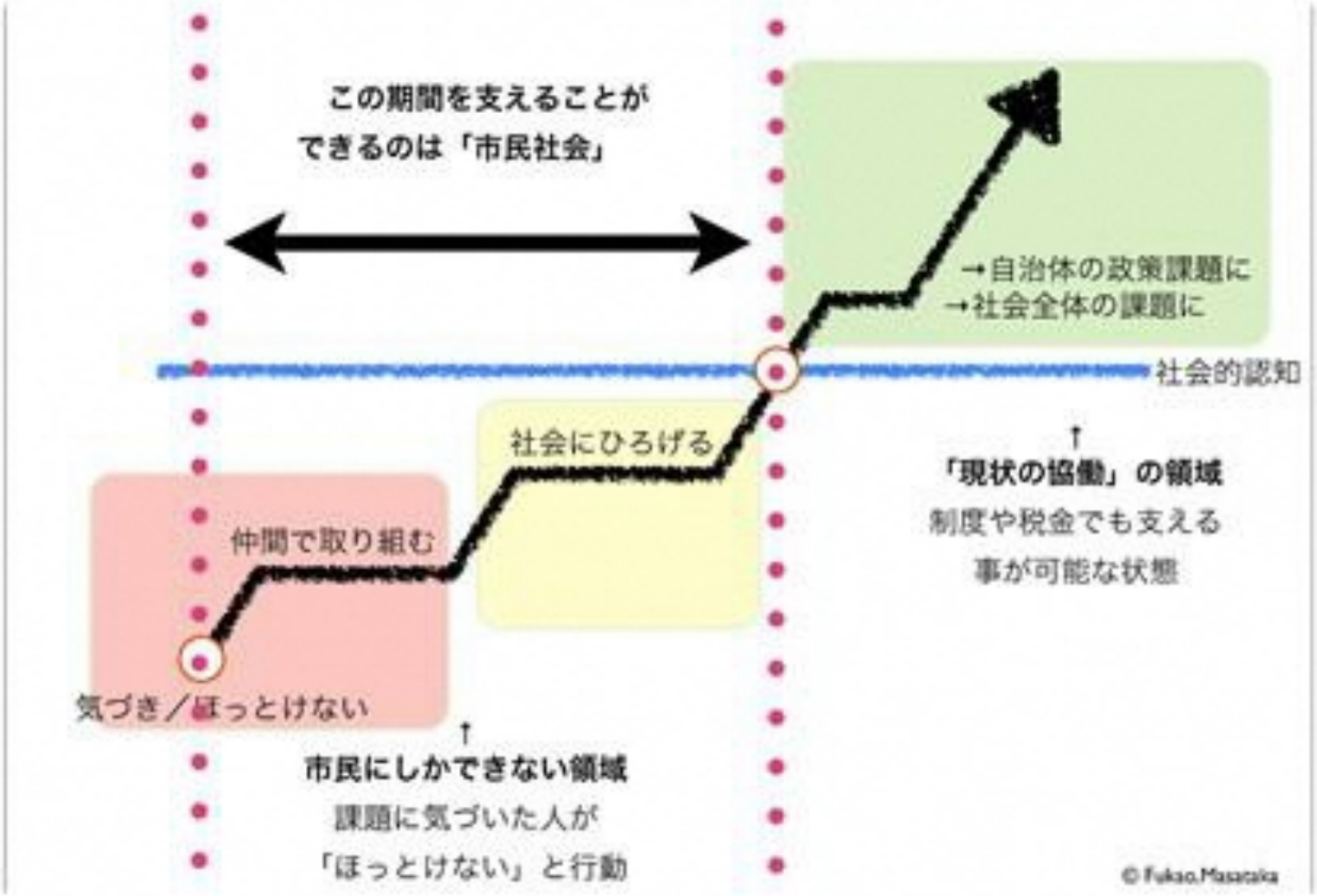
（↓）山納 洋さん（大阪ガス都市魅力研究室長）作成資料より

視点をどこに置くのか　②

「出来上がったこと」（成果、制度、仕組み）を伝えるのか

「ほっとけないこと」（気づき、課題）を伝えるのか

（↓）深尾昌峰さん（龍谷大教授、きょうとNPOセンター元事務局長）作成資料より



誰に伝えるのか

どんな言葉を選び、どんな言葉遣いで伝える？

（友達への誘い、ゼミで報告、親に知らせる、弟や妹に教える…）

特定の相手をイメージしたほうが、言葉にしやすい

誰にでも…は 逆に、誰にも刺さらないかもしれない

見出し（10字前後）を付けてみる？

見出しは「タイトル」ではない

最も伝えたいこと、「驚き」を表す

×「〇〇について」「〇〇を開催」

取材相手への問いかけ、メディアの使い分け

地域活動団体の紹介（第２部）

滋野さん、鳥居さんの お話（第１、３部）も踏まえて、

のちほど、具体的に考えてみましょう！

ご静聴ありがとうございました